



地区広報

おやまた

第5号

60. 3. 25



赤と白が大空に舞う <小山田小学校で>

南部開発が

スタート

生活の基盤を築く

小山田村と鹿間、和無田両字が四日市市に合併して、約三十年になる。市の中心から遠い西南端にあり、もつとも変化に乏しい地域でもある。農村地区の景観を保ち農業人口や農家戸数は各地区のなかでも第一位。

反面、工業事業所数、従業員数は最低である。これからも、このまま推移するのだろうか、と言いつと、近年すこしずつ変化のきざしがみられるようになった。

小山田や内山町には、産業廃棄物処理場、南部埋立処分場が作動している。

ミルクロード周辺には、サービ
ス業の進出が目立って多くなった。
そして南部開発が現実化し、フラ
ワーロードも接続する計画だと言
う。

私たちは、自らの福祉、地区
の活性化、ひいては市の発展のた
め、改めてどう対処しなければな
らないかが問われている。

子や孫にいたるまで、人間ら
しい生活の基盤を今、ここに確立
し築き上げなければならぬとき
でもある。

おもな内容

- ◎園芸クラブ誕生
- ◎南部工業団地造成計画
- ◎農構改善センター落成
- ◎釈迦如来坐像の出展記
- ◎西陵中生徒の作文
- ◎ふるさと回想記
- ◎地区のスナップ写真
- ◎「婦人会だより」発行
- ◎宮相撲六名場所

期待される南部開発の 早期実現を 是又結構(匿名)

小山田地区の発展を願って一言申し上げたい。軽く読み流してくだされば結構。

最近、市はミルク道路周辺の開発に力を入れていると聞き及ぶ。

ところが、土地の買収がうまく行かないと、これまた聞き及ぶ。

兼業農家、パートタイマー等が増えている今日この頃、近くに職場が出来るのは大いに結構じゃないですか！子供や孫たちを、遠くへ就職させなくても、これまた結構。

小山田地区は、前号の「小山田地区三十年のあゆみ」に掲載されたとおり、昭和二十九年三月(鹿間、和無田町は昭和三十二年四月)に四日市市に合併以来三十年を経過し

その間、社会経済情勢の変遷とともに地区の状況も変容しましたが他の地区と比較しますと、都市化、工業化が遅れ農村的色彩が強く、活気に欠けていると言われています。当地区としては、農業構造改善事業、圃場整備事業、農村総合整備モデル事業、三重用水事業等を推進し、農業方

面での再整備を図るとともに地域発展のための工業団地等の導入を図ることは、調和のとれた地域の発展と地区住民の生活安定に役立つものと、市当局に再三にわたり陳情、

構！

土地の半分を取られても、残りの半分が三倍になれば、これもまた結構！

小山田の財政が豊かになり我々の生活も豊かになる、これもまた結構！

こんな結構な話、見逃がす手はない。

土地を持っていらつしやる方々、今一度大きな気持ちで対処しては頂けまいか？小山田地区が取り残されないためにも、是非ともよろしく。

南部工業団地計画 畑など30ヘクタールを造成 企業の誘致

要望をしてみました。

市では、総合産業都市形成のために、内陸部開発の一環として、小山田、内部両地区にまたがる南部工業団地の導入を計画しましたが、三重用

進に協力をお願いしております。当地区におきましては、市当局の計画の早期実現を図るため、昭和五十九年八月に地区関係者、地主代表等により



造成計画が進められている南部工業団地予定地=六名町地内で

水、ミルク道路の受益地、農振法にもとづく農用地区域の除外、市街化調整区域での大規模開発など問題が多く、それらの解決に難航しておりましたが、ようやく問題解決の目途もたち、地区関係者、地主等に計画を説明し、その推

開発推進協議会を結成し、地域の発展のために諸問題を調整しながら協力することになりました。

計画としては、旧三鈴中学校附近の山田、六名、鹿間、北小松町地内の畑地、山林等約三十ヘクタールの工業用地を造成し、内陸型の組立加工、農業、食品関連企業の誘致を図ろうとするもので、地元

の協力を得ながら、昭和六十年度に法的手続きと用地買収に入り、できれば昭和六十一年度から用地造成にかか

る予定です。

健康と心の視野を広める 老人とゲートボール

鹿間町 市川金男

楽しみながら健康づくり、心の触れ合いづくりのできるゲートボールのもつ意義は、誠に大きなものがあります。

家にいて毎日テレビばかり見ている老人は、嫁や家族を怒鳴りつけていますね。それでは家庭の和が生まれるはずがありません。

老人は若者と同じ様に動くことができませぬ。また新しいことがなかなか呑み込めませぬので、何とかイライラしています。

一方、若い人達は、それぞれのやり方でいこうとするのに、何もできない老人があれこれと口出しばかりするので嫌気がさしてきます。

お互いに他意はなくとも、生活歴、年齢のちがう者が何時も一緒にいるからです。一

健康と親睦を深める 楽しいゲートボール



番よいのは多過ぎる接触時間を減らすことです。

そこで興味を持って老人を戸外に引き出せば、これまで思っていたような面白さに夢中になってしまい、顔つき、声、身振りも若返ってきます。また隣近所との触れ合いもできてきます。明るい顔つきで戻ってくる様になれば、自然に家庭の中だけの和だけでなく、外とのつながりの中で和へと段々大きく広がって行きます。

いま、老人のボケが問題になっていますが、ゲートボールでは監督はもちろんのことですが、競技する人もただボールを打てばよいというのではありません。打順、打撃法から作戦までいつも考えてプレーをしなければなりません。

このように常に頭を使う要素が含まれていることが、脳細胞の衰えをとても防いでくれるのです。健康の維持、増進と相互の親睦を深めるのにゲートボールは最適です。

私も愛好者になって二年余になります。現在は公認審判員として研修を重ねています。六十五歳の私が、パソコン、ワープロを自由自在に操作できるようになったのも、ゲートボールのおかげです。

みなさんの入会を心よりお待ちしております。

さん然と輝く釈迦如来坐像

奈良国立博物館に特別展

総代 田中弘治郎



特別展された
釈迦如来坐像

参観随日記

同年十月
四日、近郷
近在の崇敬
者有志者が
バス二台に
分乗、同博
物館での国

四日市市六名町南命山光輪寺釈迦堂の秘佛「釈迦如来坐像」については、前号で詳しく記しましたがその続編記として……。

今回この釈迦如来坐像を、奈良国立博物館の宝物展に出品し、一般公開してはどうかとの申し出がありました。

突然のことなので驚きましたが、役員会に諮り相談の結果、いままでも秘佛でしたがこの機会に多くの方々に拝していただくこととありがたいことと出展することに決め、その旨了解の返事をいたしました。

昨年七月三十日、同博物館の主任研究官松浦正昭先生が来山せられ、厳重に梱包され古都の奈良へと初のお旅立ちに、何んとも言えぬ無量感にて後姿に合掌、一日も早くお帰り下さいとしばしのお別れをいたしました。

宝展拝観に参加していただきました。

広い立派な博物館に入り、松浦先生の案内で展示物は白鳳、天平、平安、鎌倉、南北朝各時代の一流国宝物が並び、各佛像の作風、技巧、宗派（密教、浄土教）によって異なるものも、勝手につくられたものでなく、その多くは尊い経典に説かれている通りの佛様のお姿を彫像化したものであり、意味の深いものばかりでした。

如来、菩薩、明王、天、羅漢等一度も拝したことのないものばかりの尊像が並び、金銅造り、木造、乾漆造、石造り等、また像内納入品など見るものすべて尊く、貴重なものばかりにて非常に勉強になりました。

新館に入ると、パツと明るく照明されているその一室に我が光輪寺の釈迦如来坐像が安置されていました。

数多くの尊像の中には変色、金箔の離脱、損傷などが見受けられましたが、当寺の如来像はどこ一点の損傷点なく、数多くの逸品中にさん然と光り輝くご尊容を拝し、長き年月祖先が大切に守りつづけて来た信念の賜物であると、改めて深い感謝を表し全員重誓偈（三誓偈）を涙ながら奉讀しお別れを惜しんで会場を後にしました。

その後博物館では種々の調査研究が行われ、ようやく終りましたので、去る三月八日（金）、松浦先生が護送になりご帰山なさいました。役員一同、先生より期待どおりの立派な仏像であるとの説明を承り、改めてお釈迦さまを拝し安堵の念仏を申しました。



一般公開された会場
奈良国立博物館にて

雷封じの奇佛

遠生寺 檀家総代



11面観音像

堂ヶ山町遠生寺には、今より三百年前からある十一面観音が安置されている。

この観音像が現在では「雷封じ」の奇佛として伝えられているが、数少ないご開帳だけに最近では、地区の住民でさえ拝観する機会が少ない。

昔より「地震、雷、火事親父」のことわざがあるように今より百数十年前に堂ヶ山町

では、落雷のために多くの人家が焼失した。

村人たちは、その雷の恐ろしさを封じんがために、雷の様相を悪魔の人形に作り上げ観音像がその人形（雷）の上位に立って、ちようど雷を踏みつけている格好を意味し、民の迷信と情意の心が浮き彫りにされている姿がしのぼれる佛像である。

火の用心・目で用心

昨年中 小山田地区で四件の火災発生！

▼南消防署からお願い▲

昨年、四日市市内の火災件数は一三一件、その内四件が小山田地区で発生しています。

小山田地区から火災を出さないためにも、次のこと

- 常に守り、火災予防に心がけましょう。
- 炊事中等、火を使用している場所を離れるときは、完全に火を消しましょう。
- たばこの吸いがらは必ず消

し、投げ捨てはやめましょう。

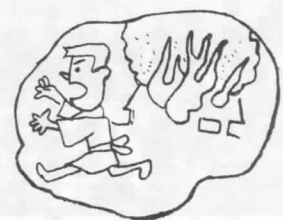
● 枯れ草等のある危険な場所では、たき火はやめましょう。

● 燃焼機器は正しく使い点検、整備を励行しましょう。

● 消防機関や、地域団体の行う消防訓練には積極的に参加しましょう。

● 消火器、水バケツ等消火器具の設置についても、真剣に考えましょう。

● 火災予防、地震対策等について家族会議を開き、お互いの任務分担を決めておきましょう。



のよりどころ

地を離れている人程懐かしく、強く感じられます。

ここにふるさとを離れ、他県に在住されている方からご寄稿いただきました。

ふるさとは 遠きにありて思うもの

平山 公司 (東京都町田市在住)

「ふるさとは、遠きにありて思うもの」なのであろうか。勤務の関係で小山田の土地を離れて久しく、一介のサラリーマンとして雑事に追われ結婚式や法事で精々年に一・二度帰郷するのみで、平素は大変ごぶさたがちである。そんな二月のある夜、小・中学校の同級生である編集委員の方々から「他県に出ている立場から、ふるさとの小山田について何か書いて欲しい」との電話を頂いた。三月初旬

縁の深い 小山田の地名

【その一】

小山田という地名を見聞きする時、「小山田」と言う地名は案外多いのではあるまいか。私は仕事の関係で転勤も多く、四日市を振り出しに茨城県鹿島市、北九州市、果ては地球の裏側のブラジルまで足を伸ばし、現在は東京郊外の町田市に在住しているが、北九州にも小山田があったが、この町田市にも小山田がある。町田市の小山田は、市の西北部の丘陵地帯にあり平安時代から小山田荘として栄え、小山田氏という豪族が権勢を誇ったところでもある。ここ

には小山田城跡が残っており春には時々花見に行くが、周辺は農村で我が小山田とよく似た町なみで、のどかな風景が残っている。そうした時、私たち家族は現実には町田市の小山田を見ながら、話題はひとしきり四日市の小山田に及び、つきることがないのである。

防空頭布と デンチで登校

【その二】

浄土宗のお寺
私の生れ育った堂ヶ山町には、町の中心部に遠生寺という浄土宗の末寺がある(このお寺が江戸時代までは浄土真宗だったことを知ったのは、つい最近のことである)。戦時中は幼稚園もなく、農繁期には託児所と称して村中の幼児はお寺に預けられ、和尚さん(オッサン)から行儀作法、簡単な読み書きを教えて頂いた。小学校(当時は国民学校といった)に入ると、村の全児童が登校前にお寺の境内に集まり、最上級生が引率して登校したものである。寒い冬の朝などは防空頭巾をかぶり、デンチを着て登校したが、全員が揃うまでたき火をして暖をとって待ったものである。盆踊りも当時はお寺の境内

で行われ、村人ばかりでなく遠くから他村の青年が遠征して来、いつの間にか村人と一緒に踊りに興じている姿があった。盆踊りが機縁でロマンスが実り、ゴールインしたという話もいくつか耳にしたことがある。昔の盆踊りには集団見合いとしての役割もあったようである。

【その三】

楽しかった三十五年目の修学旅行 タイムトラベルで小生に戻って

幼なじみと会った時。一昨年の十一月下旬、小学校の修学旅行に参加した。今更修学旅行とは奇異に感じら



県道632号線が走る堂ヶ山地内を望む

れる方も多いと思うが理由はこうだ。私達の同級生は、昭和二十三年三月に小学校を卒業したが、戦後の混乱期で修学旅行も出来ずしまいであったが、地元に住むの方の肝入りで、卒業三十五周年を記念して観光バスによる修学旅行をやるというものであった。私は東京から参加したので米原のレストハウスで合流したが、他の方は小山田小学校校庭より出発であった。総勢は約四十名で遠くは大阪、静岡、東京から参加された方もあった。三十五年の歳月と環境の相違は姿、形を変えそれぞれの生活をにじませていたが、どなたも小学生時代の面影を残しており、ほとんどの人の顔と名前は一致した。車中では、まるでタイムトンネルを抜け小学生時代に戻り話しに花が咲き、つきることがなかった。ホテルでの宴会が終わってからも、気の合ったもの同志が語り明かした。帰りのバス車中では飲む者、食べる者、しゃべる人、歌う人、思い思いに興じたが、卒業式の「蛍の光」「仰げば尊し」を斉唱する頃には、涙と歌の混合体となった。ちょうど昨年の紅白のファイナルであった。私達の世代は、戦前戦後の

“ふるさと”は心

いつの時代でも、自分が生れ育ったふるさとはよい所です。また心に残っています。

幼き頃の遊び仲間、朝夕眺めた周囲の景色。こうしたふるさとに対する気持は、特にその土

混乱期に小学校、中学校で学び、生活物資だけでなく教材もなかった。そういった苦労を共にした世代だけに仲間意識が強いであろう。東京在住の高校時代の仲間が新年宴会に集まったり、時々理由をつけては飲むことが多い。今年の新年宴会には、小学校から高校まで同級だった方が四日市と名古屋から参加して頂いた。こうした方々と話す時、打算とか利害がなく本心に楽しいものである。

人はそれぞれ、ふるさとに対する感慨は違うかも知れないが、共通していることは傷心のときも、やすらぎを与えてくれる「心のよりどころ」ということであろうか。

人はいざ 心も知らず

ふるさととは
花ぞ昔の香に
にはいける
(古今集)

「美里はいいなあ…。広々としていて…」

「それにさあ、土がよく肥えていてまっ黒だね。」

私達家族が揃ってふるさとを訪れたのは、ここ何年振りかの事でした。

幼い頃から「西の山」と親しんできた鈴鹿の山々、畑には白菜が見事に育ち、茶畑も立派になりました。

喜々とした子供達の声に「美里の人はみんな頑張ったんだよ。」

苦勞と努力でここまで来たんだよ」と諭す主人。

「お爺ちゃんもね、最初は名古屋にいたのよ。でもね、戦争でお母さんが生まれる前、ここに疎開してきたの……。」

「あの辺はずーっと山だったのよ。お爺ちゃんちの畑はね、お爺ちゃんちの四ツ畝と鶴嘴でひとつひとつ振り起していったの…。笹の根や、木の根っ株や…。赤土ばかりでね……。」

「鶴嘴のこと、お爺ちゃんに

あの頃は
つらかった！
子どもと語るふるさと話
池田 那美子
(山姓 鈴木 名古屋在住)

「これ、何て言うの？」って聞いたら「これか？これはハラヘール」「エッ？」つまりこれを使うと「腹が減る……」ウフフ。

「今、お兄ちゃんもボクも欲しいものは何でも買えるでしょ。でもね、当時は、食べるものも無かったの……。お味噌さえ買えなかったのよ……。」

「草の根を噛んだり、お母さん病弱だったでしょう。お爺ちゃん蛇を捕ってきてね。滋養になるからって焼いてくれたり……。」

「エエー？」

「その頃は判らなかつたけれど、日本中が病んでいたの……。」

「でも、あの頃のお爺ちゃん、痩せて怖かったなあ……。」

子供達に昔を語りながら今の子供達に体験させてあげること、

豊かなにひらけた美里を誇らしく思いました。そして今なお健在な父と母をうれしく思い、

当時助けていただいたご近所の方々に、あらためて感謝の気持ちを抱きました。

会員相互の連けいを求め

婦人会だより発行

婦人会だより発行準備をする婦人会役員



小山田婦人会独自で何か活動か行事を……との声があり、委員で協議した結果、会報を通じて婦人会のみならず、会の組織や活動等を理解していただき会員相互の連けいを保ちたいと手づくりの

「婦人会だより」を発行することにしました。季節ごとに二、三地区で担当を決めましたが、言葉や文章に替えるものの、物を書くことには縁の遠い人が多く、それなりに暗中摸索の気持ちで学生時代の記憶を手繰り寄せ忘れかけていた「。・。」のつけ方等、文章を書く初歩の問題にも戸惑いましたが、みなさんからの「楽しみにしてます」の言葉に励まされ、原稿を依頼したり、考えたり懸命になりました。

お陰様で、連合自治会のご協力と、地区市民センターのご指導をいただき、印刷や校正等お世話になり、ようやく広報紙としての役目を果たすことができました。委員さんたちも、遙か遠い日々体験した試験前夜のような緊張したひとときを思い起し、今回のわたくしたちの広報活動の一環として経験したことが、懐かしい思い出として心に残ることでしよう。



花に生きがいを!

園芸クラブが誕生

健康と趣味を活かして花づくりに親しむ仲間を増やそうと、小山田慶寿会（豊住勲会長）と地区市民センターではこのほど園芸クラブを新しく発足しました。

この園芸クラブは、菊の栽培や、洋らんなど鉢植え、花卉園芸の栽培、庭木、盆栽もその季節、時期に応じた手入れや栽培方法を毎月定期的に学んでいくもので、これらの講師役は会員の中からあたります。

第一回目は、去る一月二十五日、市民センターで「美しい花を咲かすには、先づ土造りから」のテーマで指導の伊藤三治郎氏を囲んで培養土の配合や、固型肥料の作り方



洋らん作りを学ぶ園芸クラブ員

など。

第二回目は、二月二十二日「温室が無くても育つ洋らんの管理とその手入れ」を豊住勲氏の指導で開かれ、三十余名の会員も熱心にメモをとったり、その実技指導を受けていた。

なお、こうして受けた技術をもとに、各会員の手づくりによる作品は、秋の文化祭に

菜の花

内山町 匿名

菜の花の早咲きを見つけて花切り鋏を持って畑をのぞく三つ四つ黄色い花に蜜蜂が三匹羽をふるわせている。青い葉っぱの中から一本だけのび上っている。

見事な花が発表される予定。

また、この会はいつからでも入会できます。花を愛する方ぜひ入会してください。

趣味と期待をかけたしめじの自家栽培講習開く

わたくし達の健康を支える一番大切な日常の食生活、それには植物、動物、菌類という三つの基本的生物から釣り合いよく栄養をとることが、自然の法則に適した健全な食生活であると言われています。こうした食生活に欠かせない食品として、スーパーや八百屋さんの店頭で売っているキノコ類……。

地区市民センターでは、週日しめじ茸（ヒラタケ）の自家栽培講習を開いた。指導は、鹿間町の近藤朝行氏で、栽培にあたっての生態や、その管理などについての



自家栽培管理の説明を聞く参加者

説明、原木への菌打ち作業に参加者も、趣味と期待をかけた半年先、一年先を夢みながら熱心に聞き入っていた。

詩

スラリとした青い茎
切ろうとしたら
左足が痛んで目ざめた

午前二時だ

付添いの母が椅子に坐ったまま眠っている
看護婦の光の輪が近づいて
うすやみの中に母のメガネがキラリと光った
手術の日に来てくれたきり
彼は来ない
やさしい いい人だったのに
嫌々のお見合いで……
いつも意地悪してたから
来てくれなくても仕方がない
母も彼の事何人にもふれない
花のいい匂い
私はまた花畑にいるのかしら
人の気配にふっと目覚める
部屋一杯に明るい陽がさして
花束持った彼がじっと私を見て
母はいない
「ゴメンネ 急な出張だったんだ 心配してたんだヨ これお土産だ」
花束の下にケーキの箱が
ゆれている
涙があふれてきて
花束がかすんでしまった
「来て下さったの 洗濯しに行ってたのですみません
此の娘 あなたを待っていたのよ」
スリッパの音と共に母の声
私は 毛布を顔の上まで引き上げた
まぶたの裏に菜の花が一杯咲いて

左足の傷が

またズキンと痛んだ

少女の笑顔

山田町 矢田まさ子

「アッ」バスの時間だ
私は急いでストアを出た
その時後から
「これおばさんのと違いますか」
「ふと」振り向くと笑顔の少女
が私の財布を持って立っていた
私は驚いて何度も礼を言った
少女は笑顔で手を振って去って行った
なんと素晴らしい少女の笑顔
きつと温かい家庭で
育てられている少女と思う
財布を見ると少女を思い出す
その笑顔を忘れず
明るく優しい社会人に
又お嫁さんになって下さいと
私は祈っている

鈴鹿の山が見えます

矢田まさ子

鈴鹿山脈をバックに
小山田は素晴らしい
四季それぞれの衣裳着て
鈴鹿の山が見えています
良い事も悪い事も
お山はなんでも知っています。
登校 登園 野良仕事
出勤や レジャーの人事
事故のないよう気をつけて
「いつてらっしゃい」と言うように
今日も小山田見えています
この世の中のある限り

俳句

小山田軽費老人ホーム
俳句同好会

胸の中見すかされしや冬の月
吹く風を静かに宿す冬木立
暮る山に凧一ツある小正月
ふんばれる鐘撞堂に雪しぐれ
初茶湯少し太めの竹の箸
小山田の坂の上より茶の匂ふ
川べりの枯草ゆる、春さむし
寒椿紅く大きく光を投げ

川柳

山田町 矢田まさ子

新築の鐘つき堂の
除夜を聞く
冬に耐え雑草強く
春を待つ

文化の殿堂

農業構造改善センターが完成

西山町



完成した農業構造改善センター

この地区広報紙がみなさんのお手もとに届く頃には、かねてより建設が進められていた西山町農業構造改善センター（集会所）も立派に完成しその雄姿を見せていることでしょう。

敷地面積八一八㎡、建築面積二二二・七二㎡（七〇・三九坪）の鉄骨平屋造、総建設事業費二七六二万三千円を費やしての同センターは、今後町民の文化の殿堂として広く活用されることでしょう。

今回の建設に至った経過は、「ひょうたんからこま」という諺があるが、西山町集会所の誕生はまさにこの諺のごとくです。

十数年前、どこの地区にも熱い広がりを見せたソフトボ

ール同好会が、大人のたわいない遊びの中から自然に育った協調の大切さ、信頼感と友情……このすばらしい集団としての団結の灯を消したくないという、連帯感が地区の環境整備への奉仕作業になり、共同で働く楽しさと影響力の大きさに歓喜し、自分たちの生きている価値感を意識し、いま何かを自分たちの手で残そう。自分たちの手ですばらしい遺産を次の世代に残してやりたいという願望が、町民全体の建設運動の輪に広がっていったのです。

加えて、一世代前の人たちもいつか自分たちのふるさという希望をもち続けていたのです。

しかし戦争という長い時代を過ごし、戦後は食べることに追われ、みんなが団結する余裕がなかったのです。その抑圧されていた永い心の重荷が、小さな盛りあがりの灯を大きな輪に広げることには強い支援と協賛を与えてくれたのです。

やがてこの土地から菓立っていく多くの子供たちがいます。彼等が生涯誇りに思える

立派なふるさとを作ってやりたい。

次の世代が、われわれから学び伝承していくものを残してやりたい。それが今を生きる町民全体の責務であるかと思えます。

いままさに文化の殿堂としての物的環境の整備と充実は出来あがりました。西山町の老若男女がこの殿堂を中心にして、心の文化を育てるために活用して、やがて町全体の生活向上の導火線になればと願っております。その文化が定着したとき、人間の知り合った動機、出合いの不思議さと縁というものの尊さを知ることによって、平和な人間関係が培われていくような気がいたします。

「はじめに育成会ありき」
この一年間、子供会育

一人はみんなのために
みんなは一人のために

子ども会育成活動にご協力を！

山田町 長田 良一

西山町自治会長 矢田 正彦

成活動に参画して素直にそう思います。

育成者がいろいろな行事を計画して、そこへ子供たちを「お客さん」として迎える。そんなパターンが、現在の子供会活動であり、育成者活動であるような感を強く持っています。

もちろん、理想的と申しませうか、自主的に、自立的に団結して「子ども会」を組織して非常に意義ある活動をして、そこへ育成者が適切なアドバイスなり、指導なりを行っている例もたくさんあります。しかしそれはごく一部ではないかと思われまます。

いま、小山田地区の「子ども会」は、各町で形だけは一応組織されておりですが、子ども会の会長なり副会長なりが、いわゆる面倒をみている形にはなっていないません。また育成会の役員も、大半は小学校PTAの地区委員が兼務をし、一年限りで交替しているため、本当に子供の中へどっぷりつかって、いろいろな悩みや、要求を聞いてやるという態勢にもなっていない状態です。

将来の日本を背負う子供たちが、心身ともに健やかに育つてくれるようにと願う気持ち、地区のみなさんすべてが持つておられることでしょう。

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という、あたたかい気持ちをもった子供を育てるためにも、いま真剣に子ども会活動のことを考えていただきたい気持ちでいっぱいです。

「はじめに子ども会ありき」という理想を実現し、地区のすべての大人が、育成者としての自覚を持ちたいと思います。

どうぞ「子ども会活動」にご協力をお願いします。



誰でも気軽に参加できる恒例の地区民新春囲碁大会が、今年も去る一月二十日地区市民センターで開催された。

囲碁を通じて、お互いの交流と仲間意識を高めようという年

茶菓子を横に熱戦 恒例の新春囲碁大会

一回開かれているもので、今年で五回目。

参加者はそれぞれのハンデイーにしたがい、リーグ戦で日頃親睦で腕をみがいた成果を発揮しようと、茶菓子を横に和気あいあいの中にも、一手一手を慎重に運び、盤上での熱戦を繰り広げた。

当日の成績は次のみなさん。

◇

A組
①矢田三也(山田町)
②片岡四郎(鹿間町)

B組
①松下 進(小山町)
②長田 一郎(山田町)



たのしい子ども会活動

つばめ

西陵中三年 藤田 さとみ

私が今から書く作文は三年間の中であらった賞の内が一番うれしかった作品です。

「つばめ」

つばめは、私達が起きていない時から活動を始める。それを見た時、私は驚いた。

ある日の事である。私は目がパツとさめたらまだ四時。その時に聞こえてきたものは、

つばめの鳴き声だった。それも家の戸が開いていないのに一生懸命鳴いていた。そうすると家の中にあるひな鳥まで

が家の中で鳴いているのだ。姿も見えないのに鳴き声で親と子がわかるんだと、初めて知った。その時は驚いた。

つばめは、家の中やいろいろな所に巣を作る。その材料はわらとか土である。どこからそのような物を取ってくるのか不思議に思う。そして何回も往復して器用に巣の形を作り、やっと出来上がる。それから卵を産む。卵の大きさは小さくてどれくらいかやわからない。そして日にちがたつにつれて卵がかえり親鳥が取って来たえさを大きな口を開けてひな鳥が食べます。懸命にひな鳥たちは食べようとす

きようとしているのがよくわかる。飛べるくらいに大きくなると親鳥も来なくなり自分たちで飛ぶなくてはならない。ときどき見るけれどもなかなか飛べなくてこまったというような顔をした鳥がいることがある。私はもう少しもう少しと応援したくなる。私はこのようにつばめの巣作りから鳥が巣立っていくまでを詳しく観察することができた。私たちにとってつばめは



毎年決まって来ては卵を産み子供を巣立たせていくだけのように見えたり、ただ季節を感じさせてくれたりするだけのように見えるけど、それだけではないと思う。私たちは、つばめの存在をあまり理解していない。つばめよりも、もっとりつばな鳥、かわいらしい鳥などしか興味をしめさない人がたくさんいる。興味本位でもはやされ

るのは鳥にとつては迷惑だろう。人間には野鳥の住む環境を破壊する権利はないし、たとえ人間にとつて害鳥であっても殺していいと考えるのは人間の利己主義である。できる限り共存の道を考えたい。私の家には毎年つばめが来る。いつもならきたないふんを落とすとしていくいやな鳥だと思つたりしたことがありましたが、今年は何んだかともつばめが愛らしい鳥のように見えます。今年になって初めてそういうふうになった。そんなふうになったのはつばめが一生懸命生きていくというこ

とと親と子のつながりをまのあたりに見たからである。雨の日でもひな鳥のためにずぶぬれになってえさをとつてくるひたむきな親鳥の姿を見たからである。つばめは卵を産めばきちんと育つまでめんどうをみるけれど人間は自分の勝手に子供を捨てる人さえいる。そんな人に比べればつばめの方がずっと親子の情愛が深いと思う。これからはどんな動物に対しても人間の側からではなくそれぞれの動物の側から人間が今なにをしてやるか考えていきたい。

全国動物愛護作文コンクール……二等
日本動物福祉協会賞……受賞

心に残った体育祭

▼テントの下は良かった!?

西陵中三年 伊藤 千津子

私は三年間のうちで「体育祭」が一番心に残っている。なぜなら、今までに経験したことのない充実感を抱いたからだ。

私は、体育祭で「記録係」を担当した。記録係は前日から忙しかった。記録用紙をつくったり、印刷をしたり……

毎年恒例の体育祭では、記録係の仕事は当日の記録をメモするだけなのに今年は違った。「なんでいつもみたいにせんのやろ!!」と、私は内心ひねられていた。そうなるのも当たり前だ。なぜなら、私が記録係を希望したのは、仕事が簡単で、そのうえ直射日光の

眩しい暑い運動場にいることに比べて当然「天国」のテントの下にいられるからだ。ところが、実際「記録係」の忙しいこと一度にたくさん記録用紙がまわされ、それをたつたふたりに計算し、記録をして次にまわすのです。ほとんど競技は見られなかった。聞いた話だが、なんでも、今年自分たちの体育祭をつくりあげるために、生徒会実行委員会が夏休み前から案を練っていたらしい。でも私にはこの忙しさに激怒するだけでそういうことにはあまり実感なかった。というより、全部実行委員会がやればいい!という安易な考えが浮かぶばかりだった。そんなことを考えている間にも、記録用紙はまわってくるという感じだ。



係も係で忙しかったけど競技も競技で忙しかった。喜んで、悔やんだり、思いつきり応援したり……。そんなとき、途中で雨が降ってきた。せっかくの体育祭なのにうっとうしい!!と思つたが、応援席の後ろのバックネットにはある実行委員会が考えた案の応援看板が、雨にぬれても色が落ちなくて、なんだか私達を励ましてくれていた。でもとても快い気分になった。それからまた「記録係」にもどつたが、とても気持ちよく仕事が出来た。私がした仕事は、実行委員会がしてくれたことと比べればほんの小さなことだけど、少なくとも私は、この「記録係」を担当して、良かったなあと思つた。



西陵中学校

よく「余生」と言う言葉を耳にしますが、老後は余生ではありません。老人は余った人生を生きているのではなく、また、ついでに生きているものでもありません。老人気質として、若い人のように「即実行性」はないかも知れませんが、「潜在能力」「残存能力」はすばらしいと思います。

これからますます急速に進む高齢化社会のなかで、まだまだ「老人の持つ力」は大きいのではないのでしょうか。

昭和三十八年に老人福祉法が制定され、地元には青山里会による立派な福祉施設があります。しかしこうした中で特に注目しなければならぬのは、独居老人、無配偶者老人に対する問題であると思います。

子供や孫達と住んでいれば表面的な喜びはあり少しは寂しさもまぎれるでしょうが病気のとき、一人で自分の部屋にいる時など心の中まで満たされていないと思いません。

こうした空虚な生活がいつか人間を無気力にし、無気力

ボケないために 茶のみ友達を

和無田町 中川 愛子

身の健康を計らねばなりません。老化して行く肉体と、慰めが得られない毎日の生活環境から脱却する自己防衛策として、皆様に利用していただくため「ボランティア活動」「老人の茶のみ友達相談所」を始めました。まだ会員は三名ですが、ボケないために、皆様のご理解とご協力を得たいと思います。||お問い合わせは||
TEL 二八一六一五へ

生活環境もよく似た同志が遠慮なく何でも話し合える。これは人間の生きがいの原点である。ボケは治らないが進行を防ぐことはできると言われました。

六十五歳定年制の導入や、七十歳就業という今後当然起り得る生活問題に対応して、心

「お互いに頼り、甘えられる」「相手の世話をやくことで生活に張りが出る」「年代も、生活環境もよく似た同志が遠慮なく何でも話し合える。これは人間の生きがいの原点である。ボケは治らないが進行を防ぐことはできると言われました。」

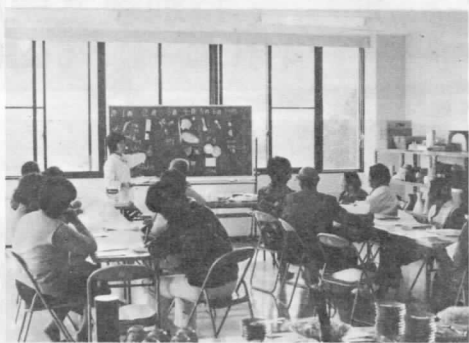
がボケにつながって行くのではないのでしょうか。私はかつてある病院で老人病棟に勤務しましたが、そこでいつとはなしにカップルができて、お二人が生き生きと療養しておられるのを見ました。医師の話では、それは老人にとって非常に良いことで「お互いに頼り、甘えられる」「相手の世話をやくことで生活に張りが出る」「年代も、生活環境もよく似た同志が遠慮なく何でも話し合える。これは人間の生きがいの原点である。ボケは治らないが進行を防ぐことはできると言われました。」



〔小山田地区道づくりの日〕59.8.26
町民出合いによるU字溝敷設工事
＝堂ヶ山町にて



〔地区防災訓練〕59.9.2
小山田少年少女消防クラブも立派に
その役を果たしました＝小学校校庭にて



〔栄養教室〕59.10.15
栄養のとり合わせなどを学ぶ
＝地区市民センターにて



〔地区運動会〕59.10.14
お昼休みのアトラクション行事
団体ごとの「仮装行列」
＝小学校校庭にて



〔地区文化祭〕59.11.10・11
会場一杯に展示された力作・労作に
参観者もうっとり＝地区市民センターにて

地区 行事 あれこれ プ ッ ス ナ ッ

盛大だった「宮相撲六名場所」

最後の場所は明治十一年十月

六名町 田中弘治郎

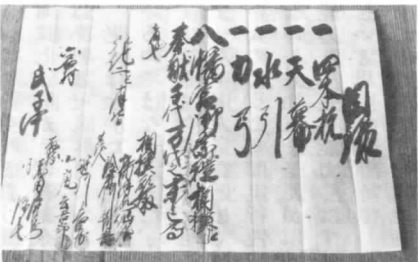
国技とされている大相撲、近年特に大衆に浸透され親しまれている大相撲も、古い歴史と共に歩んでいます。

ここ、わたくしたちの住む地内にもその昔「宮相撲六名場所」として盛大に行われていたことを、古く古老達から言い伝えて聞いています。

それによると、その昔天領民の誇りとして長く続いていた「宮相撲六名場所」は二日間の期間で、春三月には八幡祭、秋十月の須賀祭には近藩

召しかかえの力士や、近郷近在の力自慢の若人等が集まり、自力をためす良い場所として年々盛んになりました。

しかし、不幸にして天保三辰年（一八三三年）の大地震



「六名場所」興業で下附された当時の目録

- 一、四本杭
- 一、天幕
- 一、水引
- 一、力弓
- 八幡宮御祭禮相撲え奉獻千代万代之末迄為者也
- 弘化二己十月四日
- 相撲頭取
- 島津海仙治
- 鈴鹿川新吾
- 世話人
- 笹川吉兵衛
- 小嵐玄吾郎
- 取持
- 森田源左衛門

その後六名場所は年々盛んになり、幾十年間順調に催され、その結果相当額の場銭が残り、神社祭祠も楽だったと聞いております。

明治維新の一大政変で、一時中止のやむなきにいたったが、このまま閉会にせず世の中が安定したら最後の場所を催して打ち止めしようとの衆議でまとまり、その筋へ次のような願書を出し許可されました。

角力実行願

今般当区内六名村字折戸須賀神社境内にて別紙名取の者相雇い、角力興行仕度且木戸銭大人一人金一錢六厘、小兒一人金八厘。湯銭遊一枚に付金八厘づつ申受け、来る十月九・十日晴天に限り実行仕候税金壹円相添へ此段奉願仕候

明治十一年十月一日

第一大区西小区 六名村

区長 細木正順殿

願の趣聴取申候也

世の中は大豊作で、しかも連日晴天つづきで櫓太鼓や、同町の森田善兵衛、林平五郎、両家秘伝の三河花火（流星、菊花等）を打上げ、人出をさそい大入満員の盛況裡に六名場所は打止めとなりました。

（註：光輪寺の古文書及び市文化財指定の古文書を参考）

4階建の特別教室完成

4月には一般にも公開



新装成った四階建の特別教室

昨年夏頃より、建設が進められておりました小山田小学校の特別教室が、このほど完成しました。

この特別教室は鉄筋四階建

の建物で、ここ五カ年管理棟をはじめ、体育館、給食室、プール等一連の新築工事に続くもので、これで小山田小学校の整備計画は全部完了する

ことになりました。

特別教室は、一階が昇降室と図書室、二階は理科室、三階は家庭科室、四階は三教室分の広さの会議室兼視聴覚室です。

四階からは、鹿間町まで展望でき、たいへんよい眺めです。

四月下旬のPTA総会で会員の皆様に校舎内を公開いたしますが、その折には一般の方々にもご覧いただきたいと思っております。

地区の人口 5,580人

(60年1月現在)

町別	世帯数	人口		計
		男	女	
山田町	445	787	881	1,668
西山町	145	286	304	590
小山町	140	294	306	600
内山町	53	114	125	239
六名町	45	102	104	206
堂ヶ山町	103	239	236	475
美里町	38	84	67	151
鹿間町	225	445	457	902
和無田町	97	210	220	430
老人ホーム	312	98	221	319
計	1,603	2,659	2,921	5,580

編集後記

◎三月、四月と言えは卒業、退職、転勤、入学、入社等まさに人生の大きな一つの節でもある。いつまでも心に残るよい節であるように。

◎今回は他県に在住されている方から、ふるさとに関してのご寄稿をいただきました。また地区のみなさんからも多数お寄せいただき、心からお礼申し上げます。

◎地区広報「おやまだ」もみなさんの温かい育児のもとでちょうど五歳（第五号）となりました。さらに小・中・高へと進学に意欲満々。おちこぼれや非行少年に走らないよう頑張ります。